

## 特集にあたって (特集 開発途上国における図書館の役割と支援活動)

著者	青柳 英治
権利	Copyrights 日本貿易振興機構 (ジェトロ) アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) <a href="http://www.ide.go.jp">http://www.ide.go.jp</a>
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	126
ページ	2-3
発行年	2006-03
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2344/00005513">http://hdl.handle.net/2344/00005513</a>

# 特集

## 特集／開発途上国における図書館の役割と支援活動

### 特集にあたって

青柳英治

#### ●図書館支援の重要性

開発途上国に対する図書館支援は、教育開発のひとつに位置づけられるが、これまで教育開発に関連した分野のなかで図書館の役割が積極的に論じられることは稀であった。しかし、図書館は、本来、情報の提供、読書の普及、生涯教育の場としての機能を果たすことが期待されている。そのため、「世界教育フォーラム」(二〇〇〇年、セネガル)で採択された「ダカール行動枠組み」(参考文献①)で掲げる識字水準の改善や基礎教育の普及に関する目標に資する社会的施設であるといえる。

近年、国際図書館連盟(IFLA)でも図書館の社会的責任に関するディスカッション・グループが立ち上げられた。このグループでは、開発途上国と先進国との間の情報格差を縮小し、地理的、民族的、経済的に不利な立場にある開発途上国の人々の生活を改善するために、国際支援活動を強化することが検討されている(参考文献②)。このように、開発途上国で図書館活動を支援することは、開発途上国の人々の

情報アクセス環境を改善することにつながるため、その重要性は明らかである。

#### ●本特集の構成

開発途上国における図書館支援の重要性に鑑み、本特集では、まず、開発途上国で図書館が果たす役割を明らかにする。その際、国際機関が実施する各種プログラムの状況、図書館が果たす役割が国家の開発戦略とどう結びついた状況を取り上げる。

つぎに、アジア・アフリカ・ラテンアメリカの各国で国際機関や民間援助団体(NGO)によって進められている図書館支援活動の現状を報告する。

執筆は、国際機関での勤務経験を持つ図書館情報学者、現地での図書館支援活動の経験を持つ実務家と大学院生、現地の図書館で実地調査を行った弊所図書館員と研究員に依頼した。

内容の構成は、図書館支援活動について現地での経験や具体的な内容を重視した。そのため、つぎの四点のいずれかの視点を含むものとした。①開発途上国の教育・文化政策と支援現場からのニーズ、②支援の

ための各種プログラムの紹介、分析と評価、③具体的かつ実践的な支援活動内容、④支援を受ける図書館や機関の立場に立った視点である。

本特集での図書館支援活動を通じて、開発途上国で図書館が果たす役割について再考する機会を提供できれば幸いである。

#### ●図書館の役割

開発途上国のなかで図書館が果たす役割には、つぎの四点が挙げられる。①生活を維持するための社会資源、②継続的に知識を提供する場、③外部の知識をコミュニティに取り込むための窓、④コミュニティに固有の文化的活動を記録保存するアーカイヴである。これらは、竹内氏によって図書館が持つ機能の側面から捉えられたものである。

国家の開発政策との関連で図書館の役割を捉えた事例として、シンガポールの公共図書館が挙げられる。宮原氏は、シンガポールが急速に発展した要因のひとつを公共図書館の役割の変化に見出している。シンガポールの公共図書館は、世界的な知識情

報社会への流れのなかで、国家開発の重要な政策領域に寄与できると国家に認識された結果、その役割が増大するに至った。シンガポールの公共図書館の状況は、国家開発のなかで図書館の役割の重要性が明示的に論じられた事例であった。

### ●図書館支援活動の種類

本特集で報告されている各国の図書館支援から、活動の内容として分類できるいくつかの要素を読み取ることができる。それらを整理することで、支援活動の種類を明らかにしたい。

第一に、資料情報の収集活動である。開発途上国では、資料購入費が確保しにくい状況にあることが多いため、寄贈が資料収集のための有効な手段となる。その状況は、つぎの二人の報告に表れている。関根氏のインドネシアの輸出振興図書館での「資料狩り」、北野氏の外国からの資料寄贈に依存するカンボジアの図書館の報告である。

第二に、資料情報の電子化とその提供を促進する活動である。情報技術の進展にもなつて、国際機関や一部の開発途上国では、図書館サービスの拡充や情報アクセス環境の整備が進められている。その状況は、つぎの二人の報告に表れている。福田氏のラテンアメリカ及びカリブ海諸国での社会科学分野におけるバーチャル図書館ネットワークの構築を進めるラテンアメリカ社会科学理事会の活動、高橋氏の「アラブ文化

首都アンマン(二〇〇二)を打ち出し、電子資料に特化した図書館を新たに設立したヨルダンの公共図書館の報告である。

第三に、公文書やバイタル・レコードなど、代替不可能な資料を保存・修復する活動である。この活動の対象には、資料情報の概念を広く捉えて公文書館も含まれる。その状況は、坂本氏のスマトラ沖大地震・

大津波で損傷を受けたインドネシアの土地台帳の乾燥・修復活動の報告に表れている。

第四に、コミュニティ開発と連携した活動である。公共図書館が普及していない国で新たに図書館を設置する場合、コミュニティのニーズに応じたサービスを提供することによって、図書館の利用価値が高められてきた。その状況は、つぎの四人の報告に表れている。竹内氏の識字や女性開発など、コミュニティに必要なプログラムの実施と組み合わせる図書館を設置するユネスコのコミュニティ学習資源センターの活動、近田氏と加藤氏の地域住民に学習の場の提供と地域の自律的發展を促すブラジルのコミュニティ図書館、そして、市川氏の絵本の読み聞かせを行うなど児童館の役割を備えたアフガニスタンのコミュニティ文庫の報告である。

第五に、図書館に関連した各種の教育プログラムの実施や直接的な技術協力によって人材を育成する活動である。この活動は、現地の図書館員のスキルと地位向上に貢献している。その状況は、つぎの三人の報告

に表れている。那須氏の国立国会図書館がIFLA資料保存コア活動の一環として行う資料保存・修復のための教育研修活動、相原氏や関根氏の技術移転を図りながら、現地カウンターパートと一緒に立ち上げた図書館の報告である。

### ●共生と連携の必要性

本特集の報告から、開発途上国の図書館支援活動は、大きく五つに分類することができた。支援を供与する側は、活動を今後にも順調に進めるために、国や地域ごとに異なる歴史や文化を理解し、開発途上国の住民組織やNGOとも連携を図っていく必要がある。

(あおやぎ えいじ)／アジア経済研究所  
図書館)

#### 《参考文献》

- ① UNESCO, Dakar Framework for Action ([http://www.unesco.org/education/efad\\_for\\_all\\_dakfram\\_eng.shtml](http://www.unesco.org/education/efad_for_all_dakfram_eng.shtml))
- ② Kagan, Alfred, "The Growing Gap between the Information Rich and the Poor Both within Countries and between Countries: A Comparative Policy Paper," *IFLA Journal*, Vol.26, No.1, 2000.